

平成 30 年度

事業報告書

社会福祉法人たつき会

1. はじめに

■法人事業概要

事業所名	介護老人福祉施設スミール桜ヶ丘
事業開始日	平成 27 年 12 月 1 日
第一種社会福祉事業	特別養護老人ホーム事業 (定員)100 名
第二種社会福祉事業	老人短期入所事業 (定員)10 名

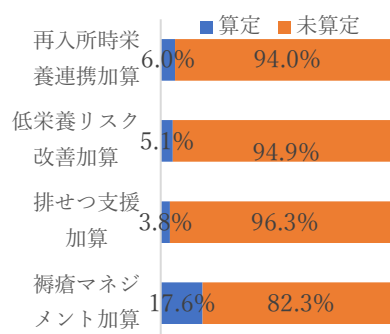
■介護保険を取り巻く状況

平成 30 年度は 4 月に介護保険法改正と介護報酬改定、8 月に現役並みの収入がある方の介護サービス自己負担割合が 3 割になるなど、介護保険制度の大きな改定が行われました。介護報酬では基本報酬の微増と共に、提供体制の評価に関して新設された加算がありましたが、算定要件のハードルの高さに対して報酬が少ないこともあり、全国的に算定を利用した事業所は少なかったようです。しかしながら、当事業所としては、安定した施設運営を目指すと共に、従前から同様の取り組みを実施していたことも多く、積極的に加算取得に取り組んで参りました。

また、東京商工リサーチの調査によると「老人福祉・介護事業」の倒産件数は、ここ数年 100 件を超えており高止まり状態が続いています。小規模の訪問介護や有料老人ホームの倒産が多いものの、平成 30 年 12 月には、神奈川県と福岡県で特養を運営する 2 つの社会福祉法人が破綻しました。両法人に共通しているのは、資金難と人手不足でした。すでに全国の特養の約 3 割が赤字経営だと報告されています。黒字にするためには「定員規模が大きい」「入所利用率が高い」「短期入所利用率がとて高い」の 3 つの要素が必要だと言われています。加えて 6 月には全国の介護職員の 7 割強がハラスト被害の経験があるとの結果報告が公表されています。これらのことから安定した施設運営のためには、優秀な人材を集め、良好な職場環境の中で働いてもらうことが重要となっています。

今年度は、消費税率引き上げに対応する介護報酬改定、技能・経験のある介護福祉士などへ月額平均 8 万円相当の更なる処遇改善が目的の介護職員等特定処遇改善加算、新たな在留資格による外国人労働者の受入れ拡大などが行われる予定です。さらに 4 月より働き方改革関連法が順次施行され法改正に対応した労務管理が求められるなど、より一層の管理・ガバナンス体制の構築と入居者様・職員にとって魅力ある組織づくりが必要となります。

特養新加算の算定状況

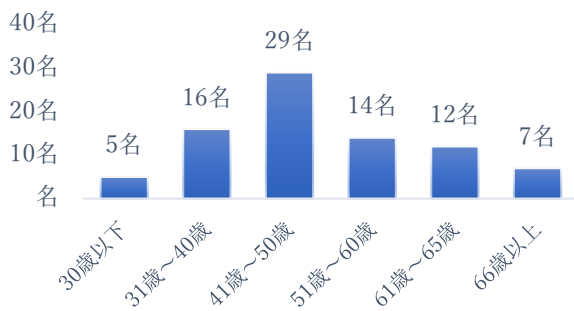


2. 職員状況(平成31年3月31日現在)

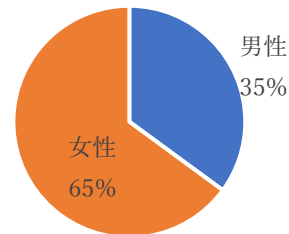
	施設長	業務部長	介護支援専門員	生活相談員	管理栄養士	機能訓練指導員	看護師	介護職員	介護補助員	事務員	宿直員	合計
職員数	1	1	2	2	1	1	10	44	7	4	4	77

※職員数は非常勤(パート職員)を含む

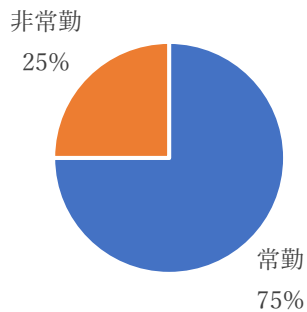
■職員年齢構成



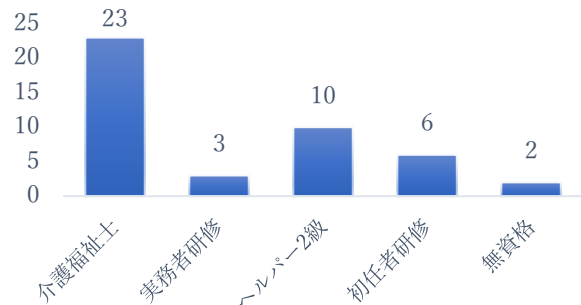
■職員男女割合



■常勤/非常勤割合(介護職員のみ)



■資格者構成(介護職員のみ)



3. 会議・委員会

会議名	参加者	実施状況	主な内容
職員会議	全職員	12回/年	施設運営に関する重要事項について情報の共有/ 新人職員紹介/研修報告/業務上の伝達事項
運営会議	施設長/役職者/専門職	12回/年	施設運営に関する業務進捗・結果等の報告と検討 事項の意思決定/問題事項の改善議論
リーダー会議	係長/ユニットリーダー	12回/年	業務遂行に関する事項の情報伝達・意見収集
ユニット会議	介護職員/専門職	15回/年	各ユニット単位で入居者様それぞれについて個別の ケア内容情報の共有

給食会議	役職者／管理栄養士 ／委託業者社員	12回／年	給食委託先社員を交えて適切な食事提供に関する協議
ケアカンファレンス (サービス担当者会議)	介護支援専門員／専門職 ／介護職員	115件／年	個々のよりよいサービス提供のために情報の共有や共通理解を図る

委員会	実施状況	主な内容
入退所判定委員会	15回／年	入所の決定及び退所の検討を行い、待機者の方の入居順位を評価した。
褥瘡対策委員会	12回／年	ブレードスケールの活用を促進し新加算取得に取り組むことができた。
感染症対策委員会	12回／年	季節ごとの感染症対策を周知徹底していくことで感染症ゼロを達成した。
リスクマネジメント委員会	12回／年	事故発生時の対応と施設内での事故防止を啓発した。
安全衛生委員会	12回／年	職員の労働安全と施設の衛生全般を監視し安全で衛生的な環境を形成する。
身体拘束適正化委員会	12回／年	身体拘束や行動制限の廃止に関して取り組む。(新設)

4. 行事

4月	お花見	9月	敬老会	12月	クリスマス
5月	母の日会	10月	運動会	1月	お屠蘇
6月	父の日会	10月	ハロウィン	2月	節分
7月	七夕まつり	11月	文化祭	2月	バレンタインデー
8月	夏祭り	12月	3周年祭	3月	ホワイトデー

5. 平成30年度介護老人福祉施設スミール桜ヶ丘事業目標実績報告

I 入居者の介護予防に努め、安心かつ快適な生活が継続できるように支援する。

入居者様が安心して質の高い生活を送っていただくために取り組んでいる「ケアプラン充実3か年計画」の2年目として、個々のケアプラン重点項目を多職種で協議・実行し、職員間で情報の共有を図り、都度見直しや臨機応変な対応に努めました。中でも入居者様の状態に応じた予防活動に取り組み入居者様の健康維持ができたことで入院者数及び日数が減少し穏やかに過ごしていただけることにつながったと思われま。

外部の医療機関への受診が必要だった形成外科と眼科について訪問診療を開始したことで、入居者様やご家族の負担軽減と、医師との定期的なカンファレンスが行え、最善なケアの実行に繋がったと考えています。

職員や委託業者の協力により様々な行事やサークル活動を行ったり、外部よりボランティアの受け入れやお買い物イベントを企画することで、入居者様に楽しんでいただく機会を増やせたのではないかと感じています。

苦情・要望等は、運営会議やリーダー会議での議案事項として挙げ、また大小かかわらず全職員に対しての申し送り事項とすることで、多職種が入居者様やご家族の意向を把握する取り組みを実施しました。また大和市からの相

談派遣事業の受け入れで入居者様からの貴重な意見を聴取することができました。

■サークル活動

サークル名	主な内容	実施状況
書道	師範の職員が中心となり書を創り、創作意欲を持っていただく。作品は文化祭で掲示。	毎週月曜日
ベタンク	テニスボールを使い投げる動作や狙いを定める行為で身体機能と脳を刺激する。(夏季)	毎週水曜日
風船バレー	ゲーム感覚で楽しみながら身体機能を活性化していただく。(冬季)	毎週水曜日
カラオケ	童謡だけでなく、懐かしの歌謡曲などを自ら選曲してマイクを持って歌っていただく。	毎週土曜日 (いづれか)
体操	阿波踊りの動きや音楽を活用して、座位で行える体操を行い、健康づくりに取り組む。	
Enjoy Cooking	入居者様自ら具材を切ったり、簡単な調理をして、出来上がったものを召し上がっていただく。	
お散歩	施設の周りや花壇を見て回ったり、近隣の公園に外出をする。	
囲碁・将棋	ボランティアの方を招いて、男性入居者様と対局していただく。	毎週水曜日
オカリナ鑑賞	ボランティアの方を招いて、地域交流ホールにて唄いながら鑑賞会を行う。	毎月1回

■実演調理

4月	オムライス(たいよう)	8月	牛丼(ひなた)	12月	ナポリタン(のぎく)
5月	コロッケ(ゆうなぎ)	9月	選べるパスタ(しゅんよう)	1月	親子丼(わかみどり)
6月	豆腐ハンバーグ(ようこう)	10月	デザートバイキング(あさひ)	2月	けんちん汁(あさなぎ)
7月	そば打ち(全体)	11月	握りずし&焼き芋(全体)	3月	中華丼(しおさい)

■苦情・相談受付

	区分	内容	対応
6月	特養	物品管理の方法について	過去の誤飲事案の経緯を含め再度職員に周知徹底する。
7月	特養	職員の対応について	状況を説明して納得いただくと共にご本人の直近の状態を報告する。
7月	特養	入浴方法の変更について	状況を説明。情報共有して今後のご本人への対応の参考とする。
10月	ショート	送迎時間の遅延について	謝罪と今後の対策を協議する。
12月	特養	眼科往診の状況について	往診結果報告を徹底することと、要望を眼科医と協議する。
1月	特養	個人所有物品の破損	謝罪と修繕をしたことを報告する。
1月	特養	居室内の整頓について	謝罪をして今後の対応について協議する。
2月	特養	ケア内容について	ご本人の状態を説明してご理解いただく。
3月	特養	転倒についての謝罪要求	状況報告と体制について説明をして対応策を協議する。

■介護相談員派遣等事業

【事業主体】 大和市健康福祉部介護保険課

【相談員】 中村 浩子

【訪問回数】 10回/年

II職員一人一人が専門職としての意識を高め、より責任とやりがいを持って仕事に取り組む。

平成30年4月より新たに5種の加算算定を始めたことをきっかけとして、多職種がより専門的で個々の状態を評価していく体制を整えることができました。①口腔衛生管理体制加算算定により、歯科医との連携が密になり専門的

な助言を受ける機会を創出しました。②褥瘡マネジメント加算算定により、前年度から取り組んできた褥瘡発生のリスクを評価するブレデンスケールの活用が定着して介護職員の意識が高められています。③排せつ支援加算算定により、介護に目標を持ち支援計画の評価・分析をしていくPDCAサイクルの構築に努めました。④低栄養リスク改善加算、及び⑤再入所時栄養連携加算の対象者には、協力医療機関の管理栄養士を中心とした連携を行うことで、栄養面から入居者様の支援につなげていくことができました。

内部研修では、講師を招いて専門的且つ実践的な研修を全職員に受講できる機会を設け、外部研修へも積極的に参加し最新の情報や技術を取り入れることができました。

就労環境向上のため、男性職員が育児休暇を取得しやすい環境づくりのため厚労省事業の「イクメン企業宣言」に参加しています。これにより今期も男性職員が育児休暇を取得しています。職員の有給休暇の取得についても、引き続き高い取得率を確保することができました。

■スキルアップ研修の開催

4月	疾患の理解や医療の知識	10月	事故発生の防止、及び身体拘束廃止について
5月	感染症対策～高齢者介護施設における感染対策～	11月	感染症対策～高齢者介護施設における感染対策～
6月	非常災害対策	12月	非常災害対策
7月	介護技術～排泄ケア(おむつのあて方・陰部洗浄)～	1月	法令遵守
8月	メンタルヘルス～介護者のアンガーマネジメント～	2月	メンタルヘルス～アサーションチェックリスト～
9月	褥瘡予防～日常での褥瘡ケアと予防ケア～	3月	事故発生の防止、及び身体拘束廃止について

■主な外部セミナーへの参加

4月	介護報酬改定セミナー	9月	介護労働者雇用管理者責任者講習	
	形成外科が対象とする疾患や治療行為		10月	人事労務管理セミナー～健康管理～
	要介護高齢者と糖尿病とサルコペニア			人手不足対策セミナー
5月	PEGの基礎知識とPEGの管理	施設における感染症予防対策		
6月	面接官トレーニング	がん患者支援講座		
	ユニットリーダー研修	11月	介護現場に求められるリスクマネジメント	
7月	食に携わる職員のためのユニットケア研修		ミールラウンドセミナー	
8月	福祉リーダーシップ研修		メンタルヘルス対策セミナー	
	フィジカルマネジメント	1月	がん患者支援講座	
	介護負担軽減を目指して		ユニットリーダー研修	
9月	ポジショニング・シーティング講座		職場で起こるハラスメントセミナー	
	介護現場の虐待防止マネジメント	働き方改革と労働災害防止に係る説明会		
	嚥下障害～食事介助～	2月	高齢者の権利擁護に関する研修	
	機能訓練指導員研修		3月	人材定着につながる採用活動のポイント
	県央在宅医療・栄養セミナー	高齢者の摂食・嚥下障害について		

Ⅲ人材確保のため広く採用に向けた活動に取り組む。

過去の紙媒体での職員募集を見直し、時代に沿ったインターネットでの募集を中心としていくとともに、地道に学校や各種教育機関への訪問活動と、様々な説明会などに参加していくことで、年間 19 名の介護職員を採用することができました。特に積極採用した資格取得後の介護業界未経験職員は高い定着率を確保しています。

また、新卒職員を採用できたことは、法人・施設にとって将来の施設運営に大きな意義があることと感じています。

■主な就職説明会の参加状況

5月	籐仁館医療福祉カレッジ事業所PR	11月	福祉のしごと地域就職相談会
6月	企業と高等学校との就職情報交換会	12月	西部総合職業技術校合同就職説明会
6月	西部職業技術校合同就職説明会	2月	ハローワーク面接会
7月	カイゴカフェ大和	2月	福祉のしごとフェア
8月	福祉のしごとフェア	3月	籐仁館医療福祉カレッジ事業所PR
10月	東部総合職業技術校事業所PR		

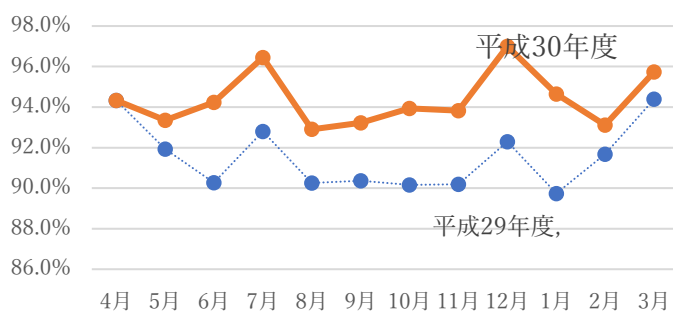
Ⅳ安定した事業運営のため年間稼働率 93%を確保する。

平成 30 年度は年間を通して目標とする稼働率を確保することができました。これは、やむを得ず退居となった部屋の新たな入居者の確保が確実にできたこと。前年度と比較して入院者数を減少することができたことが結果につながったと考えられます。また、新たに 5 種の加算の算定に取り組んだことで、収益の安定だけでなく、入居者様の状態悪化や ADL 低下の防止、退院後の栄養リスクの改善に努められたことも稼働率が安定したことの要因の一つに挙げられます。特に平成 30 年度介護報酬改定で新加算となった、褥瘡マネジメント加算と排せつ支援加算については、全国でも算定取得事業所が少なく、業界専門情報誌に取り上げられるほど注目を集めました。

■稼働率推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延べ人数	2830名	2894名	2827名	2990名	2880名	2797名
稼働率	94.3%	93.4%	94.2%	96.5%	92.9%	93.2%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	2912名	2815名	3007名	2934名	2607名	2968名
稼働率	93.9%	93.8%	97.0%	94.6%	93.1%	95.7%

(参考)稼働率前年度比

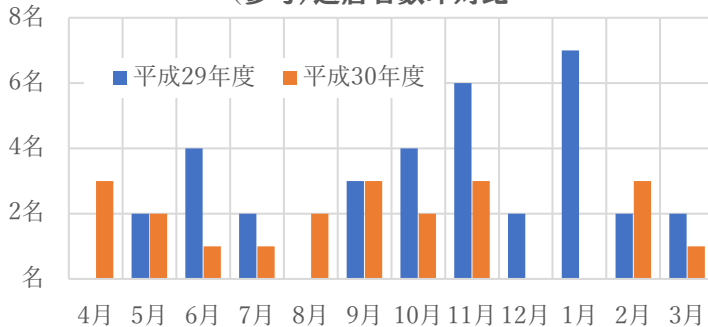


	計	
	(H30年度)	(H29年度)
延べ人数	34461名	33945名
稼働率	94.4%	91.5%

■入退居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
入居	2名	2名	2名	1名	2名	2名
退居	3名	2名	1名	1名	2名	3名
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居	2名	5名	0名	0名	2名	2名
退居	2名	3名	0名	0名	3名	1名

(参考)退居者数昨対比



	計	
	(H30年度)	(H29年度)
入居	22名	35名
退居	21名	34名

V施設機能を活かし地域にある社会資源として活用されるように働きかける。

地域の福祉教育資源として、前年度同様に地元中学校の職場体験学習に協力したことに加え、高校夏季休暇中のインターンシップ・障がいがある学生・福祉専門教育機関の学生の實習先として、施設の活用を積極的に受け入れました。このことは、若い世代に福祉業界を知ってもらう良い機会になったのではないかと考えられます。

大和商工会議所主催のまちゼミで地域の一般の方へ福祉の専門職として講義を行ったり、介護資格取得の教育機関や今期新たに創設された介護入門的研修に介護職員が講師として出向く、また福祉業界への就職を検討している方々向けの県社協イベントへの講師派遣などを行うことで、未来の介護職へ向けて、社会福祉法人職員としての責務を果たしていくことができました。

■実習・職場体験の受け入れ

5月	ミライテラス(就労移行支援事業所)
7月	籐仁館医療福祉カレッジ(初任者研修実習)
7月	相模向陽館高校(インターンシップ)
8月	大和南高校(インターンシップ)
1月	上和田中学(職場体験学習)

■講師派遣

9月	やまと得する街のゼミナール
2月	介護入門的研修
2月	やまと得する街のゼミナール
2月	福祉のしごと就職支援ガイダンス
通年	柏木実業専門学校研修センター

■主な地域との関わり

5月	桜丘東地区 11 自治体合同防災訓練
6月	上和田中学校避難生活施設総会
7月	宮久保自治会納涼祭への参加と飾り物提供
9月	やまと得する街のゼミナール
10月	地域ケア会議に地域交流ホール貸し出し
11月	やまと産業フェア出展

■ボランティアの受け入れ

オカリナ演奏	11回/年
アロマハンドマッサージ	12回/年
囲碁対決	17回/年
音楽バンド/琴・尺八鑑賞	5回/年

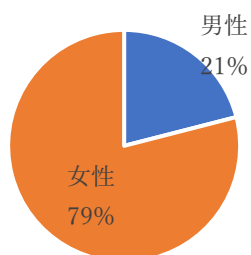
1月	八坂囃子連による獅子舞披露
2月	やまと得する街のゼミナール
通年	谷戸頭自治会への地域交流ホール定期貸出

■マスメディア紹介

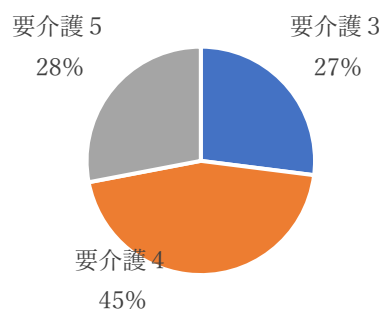
4月	ユメックス 4月8日号	「働く理由がそこにある～仕事って、やっぱり楽しい～」掲載
7月	FMやまと	「街中ハッピーレポート」出演
12月	日経ヘルスケア 12月号	「どう生かすか？2018年新設加算特集」掲載
1月	タウンニュース 1月18日号	「地域を支える介護のプロフェッショナル」掲載

6. 介護老人福祉施設スミール桜ヶ丘入居者状況(平成31年3月31日現在)

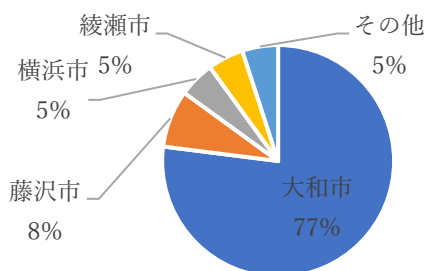
■入居者男女割合



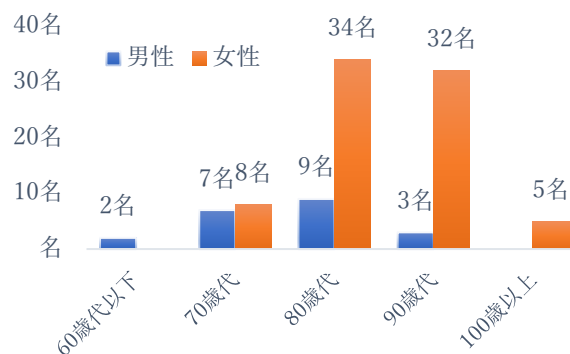
■入居者要介護度割合



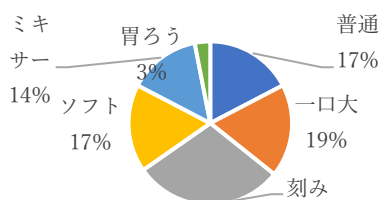
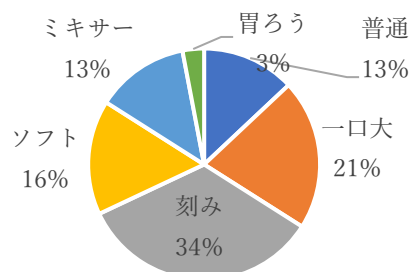
■保険者別入居者割合



■入居者男女年齢別状況



■食事の提供状況



(参考) 平成29年度状況

7. 平成 30 年度短期入所生活介護スミール桜ヶ丘事業目標実績報告

I 利用者ごとの生活環境・習慣等が継続できるような環境づくりを行い、利用者本位のサービス提供を講じる。

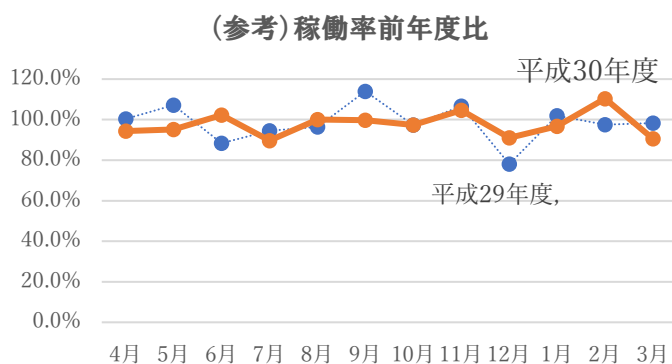
サービス担当者会議に積極的に参加することで、ご本人の生活状況を聴取する機会を増やし、自宅での生活環境を利用中のサービス提供に反映するよう努めました。また可能な限り施設で行っているレクリエーションへ参加いただくことと、利用者様やご家族の意向を把握しユニット独自で楽しんでいただける機会を増やすことで、また利用したいと思ってもらえる施設を目指しています。

II 安定した事業運営のため、年間稼働率 95%を確保する。

定期利用者を安定的に確保できたことで通期で目標とする稼働率を上回る結果となりました。特養入居者様のご理解もあり、全職員協力のもと空所利用実績も前年度より増えたことも一因となっています。単月で見ると稼働率が低い月がありますが、利用開始前に体調不良による利用キャンセルが複数件発生したことが原因となります。

■稼働状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	22名	27名	27名	25名	28名	27名
延べ人数	283名	295名	307名	278名	310名	299名
稼働率	94.3%	95.2%	102.3%	89.7%	100.0%	99.7%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実人数	22名	30名	26名	26名	24名	28名
延べ人数	302名	314名	282名	300名	309名	281名
稼働率	97.4%	104.7%	91.0%	96.8%	110.4%	90.6%



	計	
	(H30年度)	(H29年度)
実人数	75名	93名
延人数	3560名	3590名
稼働率	97.5%	98.4%

III 市内の競合他事業所との差別化を図り選ばれる施設を目指す。

居宅支援事業所からの利用申し込みに対応していくことを心掛けています。空所利用や急な利用開始への対応を行うことで、関係機関から頼られる施設となるよう努めました。しかし稼働率の高さから空所がなく断らざる得ない機会も多く、今後は確実な空所情報を提供していくことも重要であると感じています。

利用者様に対し満足度調査を実施し潜在的な要望などを聞くことができたことも大きな成果だと感じています。

■ショートステイ満足度調査

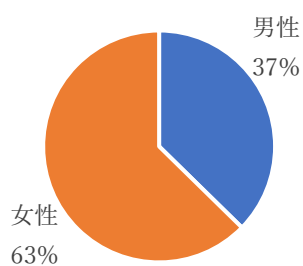
【 調 査 日 】 平成 31 年 2 月

【 対 象 】 ご家族様/ご利用者様

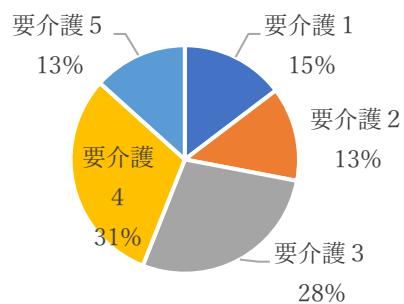
【 回 答 数 】 36 件

8. 短期入所生活介護スミール桜ヶ丘利用者状況(平成 30 年度)

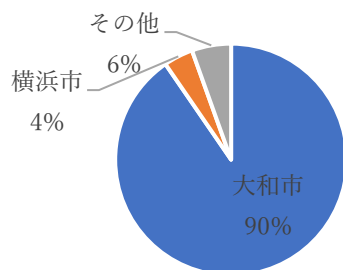
■利用者男女割合



■利用者要介護度割合



■保険者別利用者割合



■利用者年齢別状況

